

二〇一三年一月二七日(箕面公園参加者一三名)

木洩れ日に煌めき落つる紅葉あり	わかば
千本といふ満目の谿紅葉	"
倒木の谷へなだるる冬木立	"
切り岸に炎のごとき紅葉かな	"
紅葉宿文豪来しを誇りとす	うつぎ
石龕の小さき弥勒に紅葉影	"
紅葉影瓔珞となす弁財天	"
寺小春仏足石に日の温み	"
幾度も振り返り見る紅葉山	ひかり
玉の日の参道に満つ紅葉寺	"
小春日の径はハイカー銀座かな	"
落葉敷くへヤピンカーブ恐れけり	小袖
寒の水浴びせて祈る不動尊	"
母苞へ艶めくもみぢ拾ひけり	"
もみぢ影さす川の淵魚影濃し	せいじ
せせらぎは癒しの楽や紅葉峡	"
奈落より見上ぐる峡の照り紅葉	"
仰ぎ見るバルーンのような紅葉山	有香

弁天の胸に色射す紅葉影	"
峡の日を空に散らして照紅葉	よし子
紅葉影さす沢水を掬ひけり	"
紅葉枝の八重垣なして谷深し	きづな
寒禽の鋭声を浴びて深山路	"
紅葉谿へと全開す茶屋の窓	菜々
紅葉冷茶屋にあつあつコーヒー飲む	"
紅葉山登るシースルーエレベーター	満天
紅葉山パノラマとなるカフェテラス	"
小春の日瑞雲橋の擬宝珠に	宏虎
照紅葉天蓋なせるカフェテラス	はく子

二〇一三年一月二七日(箕面公園参加者一三名)

吟行句会みのる選